

2026
ズバリ! 的中



世界史

東京大学

ムガル帝国の論述問題がズバリ的中、
指定語句である「ペルシア語」も同一

入試問題

前期日程
第1問 問(1)

問(1) モンゴル帝国解体後の広域交流の展開を踏まえてムガル帝国の成立に触れた上で、ムガル帝国の宗教政策や文化について、10行以内で記述せよ。その際、以下の4つの語句を必ず一度は用い、その語句に下線を付すこと。

アウラングゼーブ タージ=マハル ティムール ペルシア語

河合塾

直前講習 東大世界史テスト
第1講 第1問

第 1 問

16世紀に南アジアに成立したムガル帝国と、17世紀に東アジアに成立した清朝は、外来勢力が、周辺地域においては在地権力の自治を認め、直轄地域においては従来の支配層を取り込みつつ、土地税を中心とする財政基盤を確立し、広域支配を実現したという共通性を持つ。一方で、社会構造や文化的背景の相違により、宮廷の公用語の選択など、両帝国はそれぞれ異なる特徴を持つ。

以上のことを踏まえて、18世紀初頭までのムガル帝国と清朝の直轄地域における支配の特徴について記述せよ。解答は、解答欄(イ)に20行以内で記述し、以下の8つの語句を必ず一度は用いて、その語句に下線を付すこと。

旗人 郷紳 ザミンダール ジズヤ
儒教 ペルシア語 マンサブダール制 文字の獄